

4 月に入省する所謂キャリア採用の厚生労働官僚の内、東京大出身者がゼロになったという。

旧厚生省と旧労働省の合併に伴い、共通採用となった1999年以降、出身大学名に囚われない多様な人材を採用してきた厚労省だが、省内やOBの一部から「東大生ゼロはとても寂しい限りだ」との声も漏れる。

厚労省に限らず、霞が関のキャリア官僚を志す東大生は嘗て多かった。80年代等、「同期の殆どは東大卒」（厚労省OB）というケースが少なからず有り、歴代事務次官の多くは東大卒となっている。

近年は特に多く、現在の事務次官である伊原和人氏（87年入省）や前任の大島一博氏（同）、樽見英樹氏（83年入省）、鈴木俊彦氏（同）等は東大法学部出身だ。京都大出身の吉田学氏（84年入省）や阿曾沼慎司氏（74年入省）、高知大学出身の村木厚子氏（78年入省）等の例も有るが、歴代の厚労事務次官の内、半数以上は東大卒だ。伊原氏以外の幹部でも、間隆一郎保険局長や宮崎敦文官房長、鹿沼均社会・援護局長、

厚労省

人事ウォッチング

村山誠職業安定局長、岸本武史労働基準局長等多くの局長は東大卒だ。厚労省には財務省の様な「東京大学法学部卒信仰」は無く、或る厚労官僚は「東大卒だから偉くなっているというより、東大卒が多かったから幹部になっている」と明かす。

だが、東大生の官僚離れは著しい。人事院によれば、2025年度の国家公務員総合職の採用試験で合格した2219人の内、東大出身は338人。15年の560人と比べて大きく減っている。

第101回 4月入省の厚労官僚、東大卒ゼロの衝撃

役員にしか出来ない仕事があるのに」と嘆く。又、東大卒の厚労官僚は「一番成績の良い学生が入る大学から厚労省に入省する者がいないというのは、寂しくもある」と漏らす。

近年でも厚労省採用者内で東大出身者が一番多かった年もある等、一定程度人気は有ったというが、減少傾向にある東大出身者の代わりに増加傾向にあるのが、早慶やMARCH（明治大・青山学院大・立教大・中央大・法政大）等といった私大出身者だ。何れも96年入省で、吉田一生会計課長は上智大、

一方で、近年の東大の就職先上位は総合商社や外資系コンサル等が占めており、キャリア官僚は人が無い。東大の次に多いのが、京大で160人。以下、早稲田大（117人）、東北大（86人）、北海道大（83人）、慶應義塾大（77人）、中央大（69人）と続く。

この現状に関して、或るOBは「昔は公共に対する精神から公務員を志望する学生は多かったが、近年は自分の力を試したいと民間企業に就職してしまう。制度を作ったり、政策を練ったり等、国家公

宇野禎晃官房総務課長は慶大、尾崎守正ことも家庭庁長官官房総務課長も慶大出身だ。早大出身の原勝則氏（79年入省）は厚労審議官、同じく唐澤剛氏（80年入省）は保険局長まで登り詰めている。

最早、東大法学部に官僚養成機能が失われた現在、今後も同様の状況は起り得る。農林水産省も近年、東大出身のキャリア官僚がゼロの年が有ったという。私大出身でも東大出身に負けず劣らず優秀な職員も育っている。多様化する時代に合わせた人材育成が引き続き求められる。

2025年度国家公務員総合職採用試験
大学別 合格者数ランキング

順位	大学名	人数
1位	東京大	338
2位	京都大	160
3位	早稲田大	117
4位	東北大	86
5位	北海道大	83
6位	慶應義塾大	77
7位	中央大	69
8位	立命館	65
9位	大阪大	61
10位	東京科学大	58

人事院の発表資料より（2025年12月18日発表）